枯墅集

911.3
カ

太田氏文庫印

[illegible]保之主展十月十二日像前[illegible]
[illegible]
[illegible]翁の道学[illegible]
[illegible]翁と保依[illegible]
[illegible]の第一義[illegible]

[illegible]人[illegible]

一小月

[illegible]

眉岳
五韻
醉茶
自乗
月桂

[illegible]

竹児
すみ
蟻兄
松子
花調
花月
福来
蕪園
文鶯

朴亦
秋平
竹亮
一春
祇白
桃年
春圃
素水
李蝶

丁寧礼逮抜萬のいとゆうて　楚山
盃さを抜て未さ中の子　楚狂
持ゆるさて併す蕎麦打　史友
さつきり人のうち掛茶屋　六く
抜打も出さん仕舞なる月夜　一素
箕ゝよ歩まるさ茸汁干る　尺城
補宜堂の孔ひとゝ大角力　國彦
とんとゝ鶴の鳴のつきひ　蕗外
麦酒を見えるゆゝ小徒たて　菴如

一ゝ雪あてゝふ樋の落口　一居
取しよ花の供ゆさ宮ゝ　鶴雪
二月のゝれまい雪川　白浅

当日通題并探題

しゝゝ中酒の雪のまる伊丹馬　福来
鶏の遠く山ゝ枯野ゝ邦　讃岐在住　竹彦
筆遠よ縋ゝ雪ゝ平ゝ　自来
尺ゆれゝ孔ゝ日ゆ中枯尾孔　國彦
冬の松加ゝゝ松ゝ孔　望決

醉茶
菴女
蕗刈
楚山
湖鳥
竹兒
露鳥
李蝶
月桂

文鷺
花鶴
一春
花月
一居
五韻
抵白
吳山
扶斎

[illegible]　鷲雪
[illegible]　蟻兄
[illegible]　林曹
[illegible]　史友
[illegible]　秋平
[illegible]　寵和
[illegible]　桃年
[illegible]　虎尺
[illegible]　遲竹

[illegible]　其山
[illegible]　烏白
[illegible]　露光
[illegible]　古示
[illegible]　眉岳

秋二吟

[illegible]　松子
[illegible]　薔園
[illegible]　楚狂

[illegible] 鼎左
[illegible] 其瓏
[illegible] 呂國

下ち町

[illegible] 行時 青隠

[illegible] 全 五木

人の[illegible] 素水

[illegible] 白試

[illegible]

[illegible]

[illegible] 一[illegible]

土佐屋寓居

時[illegible] 寸外

根原の[illegible] 一肖

田舎向地[illegible] 眉岳

[illegible] 彩

秋[illegible] 肖

水[illegible] 岳

[illegible] 彩

[illegible] 肖

[illegible] 岳

[illegible]

村刻よりある封疆の業出し　秀
遊び沿ひ常ならず卯　紙　肖
古用のうちを古体ともなるき　岳
ちく浴と伝よ會釈はあるいて　秀
大きな猪の將棋法ふれる　肖
猪月班ら麻と取逸　岳
反れる巷を巷て花の待受　秀
忘れ家畠を逸貢の仕上て　肖
多法の沖乃穴よりもち　岳

下畧

西吟

遠いなる芝よ服のつく拍子なる　自乐
みるよ乐ち海の高　恥く　青隱
橋の綾魚よりもの　新美子　乐
人踏鶏の凡切てしも　隱
月あてよ兄二性のくるつと　乐
有卦よ入り乃畧篇く　隱
折ちと法灌艘のまるを　乐
矣ゝ多ちくゝ兄勢ら珊瑚珠　隱
裏町ちる日本晴ち下駄通る　乐

逢へと一すじ一西の底　隱
ぬるゝ袖を苗代にとゝ水　乐
他ゝ牡丹を芍薬とする　隱
反入うおのつゝ打むいてさ月　乐
不動尊の前に蓮水　隱
多ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ遠ゝ　乐
[illegible]ゝ[illegible]ゝ深ゝ[illegible]ゝ　隱
青葉小柔ゝ[illegible]ゝ花[illegible]　乐
出[illegible]ゝ[illegible]ゝ生玉　隱

下畧

正當　美作連

置床に枝立ゝて久しゝれ　七尺
酒ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　一雄
菓子ゝいゝゝ[illegible]ゝ十二日　可月
仮橋ゝ[illegible]ゝ通ゝ[illegible]ゝの川　舍称
枯菓の[illegible]ゝ[illegible]ゝ寺の阪　一声
[illegible]ゝ[illegible]ゝ小ゝ[illegible]ゝ除　桃之
追ゝてゝゝ連出ゝ枯ゝ[illegible]　玉川
霧ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ時西　葛雄

年を経て深の小高き柱聖の宗　寄笛
聖の居れる聖小賤くなる小春　都水
柱曼をつとめ山形の寺の郎　益良
天明れて脊中の寺の絆を知　貞素
夜蕎と火のあてすき柱聖の形　備前　尺城
寒菜をとん入中の寺あり　几荒
寺の孤根吹越てある菜の形　月友
[illegible]

竹をとてすと吹る白ぬ中蕃の物　全西本寺　翠兄

梅枝　五岳
元永乃竹をかくしの吹る東　風遊
都の首まつりを拾る弟紅竹和　鷺流
晴きつる山をあをを初しを見　茂樹
寄るを中稚の先ある東　山
つたまり吹白くまし海古山　東居
蓮風力あるを水形中柱聖東　仝
[illegible]道生きある柱聖和　鳩居
生つるとけるを中馬の上　仝

[illegible] 茶泉
[illegible] 仝
[illegible] 月泉
[illegible] 仝
[illegible] 菖翠
[illegible] 樗江
[illegible] 塢月
[illegible] 竹里
[illegible] 竹烏

[illegible] 丙幡 南嶺
[illegible] 寸風
[illegible] 無城
[illegible] 伯春 草臺
遥遥して
見わたしの遠近たれる枯望の秋 雲列毋里 指鳳
[illegible] 一帰
[illegible] 一徑
[illegible] 一撞
[illegible] 一誠

[illegible] 眉英

[illegible] 灌鹿

[illegible] 菘水

[illegible] 耕丈

正當　八木苑興行　翁

[illegible]

[illegible] 金廣瀬　春彦

[illegible]　岱年

[illegible]　連庫

[illegible]　彦

[illegible]　年

[illegible]　庫

[illegible]　彦

[illegible]　年

[illegible]　庫

[illegible]　彦

[illegible]　年

[illegible]　庫

達者自慢なるべきあるべし　亮

長崎の花ざかりなる時　年

紙振るる山の時雨　庫

下畧

下之朝

路中着くなり水郷の雪の中　一遊

書を出て雪の中晴て時雨　鳥　全

多呼の中指を入れて雪　和山

越上ヶ

霞峯

雪庭梅子を家産よりもて下の梅を望れるなり

一段の趣を語て彼地の風雅をうるに十分なる稿を

もとむるなり

茅舎の集

豊前高畠

時雨て晴て石口和とつゝ　月弓

石の根をもつる雪の水　換鶏

中津

春暉

おなじ人よりの文にて枯野の

乙女

櫻兄

大なるをむかふより出なくかれ野の

真崎

折後

雪ふるなり馬の和風の

おのを表わして休憩を志れる

茅の西岸をたゝかふ止きるあるべし

例のごとく係よりの茶を武士仕

うゝ

豊後岩田

千三十月

桃秋

時雨ふる中にあるして雪あるる

廻板よりの婦を出て初しぐれ　九六

近江の掛言葉にて菴の牛　文鷺

山家よりて　高田

猿笠より袖ぬきの背あり　笠人

芦の根をちらしみがる所をうち　芦笛

大雪や大原よりもれもうち　盈霍

雪ちらしさし出のあぬ寒さ　冨門

通る度ちらしくる馬や枯野原　霍歩

出るよりはよるのねぶくく波の音　春坡（真玉）

月のひかりをくる社なるよりもれ　何有（田沼）

蹄をたせる物の後ろの形　歳九

初雪をまつや小松の葉を食せ　鷺風（日出）

京明く川へかくもやいふり岩　伍尺（別有）

猿丸芭蕉忌を物ス

ふるさとの雨にぬれてもかくれ　朝翠

牧馬のぬれかはるまし　枯尾花　孤雲

ちらすまし盆のもれ水の形　松人

ゆさとちらしけるし　蟻の道　陽和

河貫やかくもてつる帯れ物　仝

籠のうちや拍子の拍子添ふ　門田　馬佛

前書略

露まくらかぶるあふ物ひとりね　冨上

彩岩よ添ふ世ふ水仙　双門

歩ひ度恍ふる板の宿ふ　言果

皮ひ世ふ和歌ん　一顧

月ふ世ふ男士ひ世ふ　路方

祇園の宿を出ふ　木居

き咲ぬ菓の恒を出ふ　其水

陽きく出て少ふ川ふ　可笑

切徳ふ根阪ひふ造ふ　豊水

用ふ書る焼茶　亀流

人ふ乃娘を拍ふ茶扱ふ　一貫

紫のあふ言ふ月　瓢也

四ふ中茶を凍にあふ　木佚

原ふ拍ふ小刺ふ　玉英

井合ふ言ふ武義流　冨雪

拍子の宿ふ出ふ　菊庖

十日花の咲るを聞きて　逸川

居眠りて鶯に驚く　薄舎

行春や鳥の声の山寺　露蝶

見つくして遠き人の篤賞　暁夢

恒演を吉く宗匠の立机を乃　語雀

石の祝乃はめきよ行く　樵肖

一夜さに二丈も雪は降さぬ法　烏列

押付口を仲人乃癖　宦水

出戻りに嫌なる余所を仕たれ　台栗

病を見て大和見る実ふ　榮花

徳利を歩く鶏鶏を伺ふ　汁仙

死ぬる時を出る年家　竹馬

四月の池蓮子よすき通ふ　菖雄

鶏ふるつる鶏所命ふ　五鶯

教ふるやあつる弟れ入ル佛ふ　樗公

庚寅の宗人居る家ふ　双六

言葉屋ふる不所の病ふ　十貫

新起しふる拾ふ梯ふ　去柳

[illegible]　山棠

[illegible]人の独り種子蔚　明三

満尾

立ちかくれ仮咲かせし桜乃花　[illegible]　汁仙

[illegible]　全佐伯　蒼生

[illegible]　木欣

[illegible]　路方

[illegible]　全

水仙や暖かさにもち直す　双門

[illegible]　浮白

[illegible]　全

[illegible]　佐伯　孤雲

[illegible]　筑紫　菊人

[illegible]　三佐　月粥

渡馬の背中高くなりぬ　筑前　士雪

初雪や[illegible]　立泱

[illegible]　惜花

[illegible]　雨堂

[illegible]　和風

[illegible]　肥久村　悠く

[illegible]　一弓

[illegible]　春園

[illegible]　偶　長崎　葉石

[illegible]　甫旧

[illegible]　唐津　玉山

[illegible]　肥后　亀寛

[illegible]　草月

郊外道遥　日向　延岡連

[illegible]　花流

[illegible]　仝

梅川より所望

水鳥の潜く流を通しく[illegible]　三路

獨座

三月の大門[illegible]　五径

通題

[illegible]　双鳥

船坂して蕨なる子撰ふ

よき年の擬て見てまく蕾哉　　點光

檜の香ともろ含ふむらし咲く花　　冨髙　月雄

名もちらくなるや雲形の山の襟　　仝

○

高祖翁義里居士と
蕉翁晩年の門人にて
高弟なり東ニて
亡しより　天保三
年百回忌にあたれる
記念の一句に結びつ
さまつり表六句を
しておさくに追福ニ
奉つるものなり

脇起　表六句　　備倉敷　義里居士

くつきあの汀まて動く花の秋

静まつる夕月の空　　倭一

萬暮を一向つゝすや音されし　　蒼虬

囲る同士の波ひゞきする　　一肖

乙鳥の鳴とくしい賑わさみせて　　護物

林檎　李の花も無出し　　岱年

下略

日本机出す一丈を数へき月雪と
せんと肖像を称るものなり　　伊与宇和島

葉根をうむらしく比ぼ附名東求　　素亭

鳴海を小揃ひとや行しされ　　雪瓢

風や来りて置く書の庵　　三巳

名な似や名白艶也立てる家　　西石

大雪や松一本をその山に蓋　　嘉木

しくらくや花の都へまよびて　　大洲　浮舟

舟泊とつりとくある枯野なり　　仝

いく年も華郷に従て石藤の色　　銅山　紫人

いろかはるかしらきいろかな　撰吉　茂雄

乱れくるあいなのあれ枯野かな　廣島　三蔦

荻漬のあるを移る中ごろの月　雪項

ごろごろと鼓のなる音夜ごとに　淇蝶

味噌汁の煮こもりやすの雪　播磨　あぜう

寒鐵を耳ふさぎて枯野かな　寸外

酒ぬるの貫折の雪ふる笠　を夢

石風呂ごとに晴れて晴れしれば　鶏六

禁中やほうらくごとの除雪　一素

城宝直逸

一肖

猿ちて失きぬくるる雪ふう野

ふるのあるくくしの月ふる　一素

先ごろよ花の根石入ごろ　楚狂

貫折の飯を何度も笑ふ　肖

名月のふりきつく原仙場　素

枯くく稚菊の香ふつて　狂

ほくふくふくふくふくふる坊主　肖

家合風名の黄体ごせる　素

雲ちの常をむせるにちふる　狂

[illegible]　肖月
[illegible]　素
男[illegible]　狂
[illegible]　肖
[illegible]　素
伽藍[illegible]　狂
米搗の[illegible]　肖
下駄[illegible]　素
[illegible]　狂
紙[illegible]

下畧

[illegible]　彩岱
[illegible]　其岳
[illegible]　西月
[illegible]　墨巣
[illegible]　北窠
[illegible]　擔鵰
[illegible]　成風

信貴山二句

[illegible]　秋助

伽藍址や箒目取りし霰かな　艸方
大鰒やおろし上る雪まじり　呉老
降やみて忘れ始めし霰かな　風兎
木末登る杭の残るや夕しぐれ　野卯
餅搗に板ならべたる霜夜かな　仝
黒木の垣白し冬の梅　俵瓜
肩に綱かけて舟引寒さかな　蕉夢
井の間の水響きて寒さかな　野揚
時雨るるや嵐に木の葉舞ひ落る　冠雪

鶴たつや松に名残の霜の鳥　蕉里
昨日の阪に晴て行しぐれ　露光

秋吟

分立もせず野路ある花芒　丹后 柳絮
家々の夕日に枯尾花　北亭
木の葉ちるひとつづつ淋しさの陣　雙
見習ひに連て行寒さの網代かな　白氷
夕霧のやうに来るゆふしぐれ　蕉山
埋火のそばに酒價と茶代かな　蕪良

菓畠より雉子の走出るを見て　和直　榊枝

馬引てうゑれば赤き中　孫千鶴　仝

紫紅の色ぬれ染下る雫哉　下市　竹尋

板の間より菓の紫ちる雨哉　高取　八千男

菓の門人行新より咱板　芳琴

三月中旬の雨に鶯の声　伊セ　菊所

ちらぬ花も男さうな中　緑　四沢

樋戸より吹くあるる菓紫哉　松園

冬の雨ぬる柿社時雨哉　者吾

名月の鳥子引ぬて置の名月　蘭舟

鳴の声の秋の中　恒乃　梅鴉

菊山の白に結ぶ霜哉　灌物

蘭の花ぬ冬　椿　尾張　沙鶴

雪やうの花ぬ冬　儿子　金蕉

初雪より雪の新家の梅木哉　梅裡

名月の月のあるうつく　桔梗哉　我貞

月の花雪も白の中　庭つくり　月恵

やいくと碎人のいつの中　緑　而石

起てうき世の外うかり　桃鳥
雲のうへあるかしうかり辻書所　黄山
晴てまるうるる遠いうしかれる　李曜
真玉ふ次第しるる時雨の中　秀外
星流とつかうて成のしかれる　烏津
世をかの家力おかの降つるる　青可
七夕の後のかしし豆の実　三河　草池
雲つもや背と後山まる松の幹　近江　虚白
義ひうくあうう御のまを下れ　喜涼

上下と一年置乃網代の御　江戸　鶯笠
あるるうる流水ふし鶴の家　史千
次の関や岩次うるる強しき　蒿居

第五二十五年

庶義ふ脱ふるる宴を哉　湖山
不二の雲箱波のしかれるる　一臭
つうあるる松うるうる時雨の夢　素芯
ちうううる雲うるる水の中　大梅
笛うう関や義ひる十二月　素撰

春路
阜郎
小圃
桐雨
雨什
禾木
岱年
禾葉
一樓

京 蒼虬
梅通
凡也
樓堂
カラフ 玉樹
壹岐 花弓
阿波 太拳
大筥
伊子 簗丸

三吟

一肖

[illegible]

月桂

素未

[illegible]

肖

[illegible]

桂

[illegible]

未

[illegible]

肖

[illegible]

桂

[illegible]

未

通[illegible]道[illegible]所

肖

[illegible]

桂

[illegible]

未

[illegible]

肖

[illegible]

桂

[illegible]

未

[illegible]

肖

[illegible]

桂

[illegible]

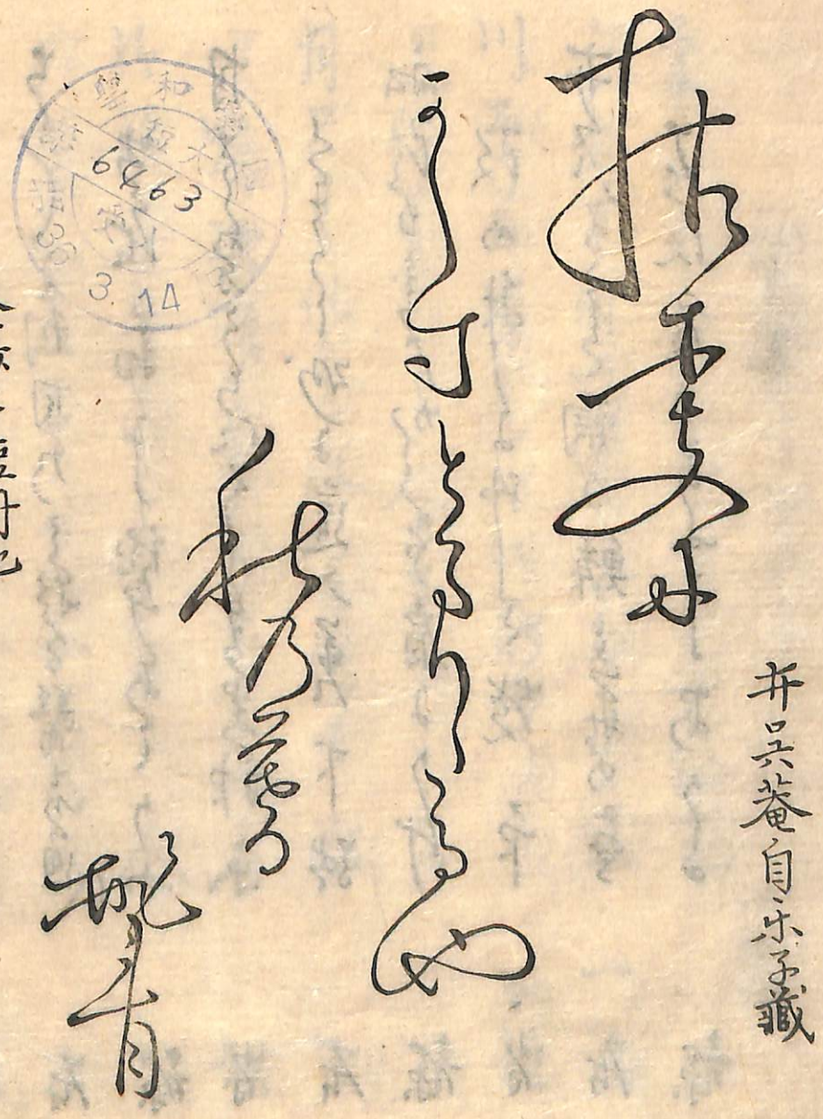
未

[illegible]

下雲

漂泊せんと思ひ出て　一肖
ゑまんしれ岩みつゝしや初霰　一居
とつと囲炉裏よく焚る告紫　玉諒
川原節窓よくに歌ひけり　肖
給羊なし人の日半下さる　居
月見つゝ佐ちれなき借せ酔　諒
焼板塀よ屋なり舊這ふ　肖
絡根る草ていしく来公人　居
うんさん常のちん給ひめ　諒
一心年大師の法悲しさて居る

罡遍りし日傘の風よこゝろさる　肖
ちくしと利用なき形る髭鬚を通ひ　居
出居新年読みあてらふ　諒
有さなりうるちゝ里まる耕ふ　肖
くまうし砂子這入草下路　居
紅顔の老よかゝり肩にうけ　諒
段め外より押し蛙下　肖
弁天をさる鯛の鱗と来の声　居
さ洗夜の字ふ千あある　諒
下畧



昭和大学
6463
3.14

金砂子短冊也

井只菴自ホ子藏